



改定

萬年

年

三ノ

墨門切

門
神
棚

かき縄

虫初

徳初
きう始

子始

年男 子

饅餅

所看

門松

中
三
上

4

故鬼板

三

子

あゝ玉乃一まき梅るんをば〜ひんたて松を
あゝんよりそくをそよづきかざりりあがを
國れとくをいなきへくをそよと^いわぬ
雲乃とくを空方ぬ少新祥など政事^{まじ}無きなり
地よりそくをそよ〜知^ちるきわなりなり

中より道々物や門乃春

道呂

春乃日や光る源氏乃と日

良保

二度山や春乃肉外れ春

一系

東や九万八千年夢乃春

常倫

あまきひめてほき山乃あ

後人

門松より由腰も礼考のち

屋信

雪より少る新いふ娘れ福りかづこといふ年法

乃白本綿花ともいふ山松乃肉は清い

ねさぐりやいひあふせりあめれあこのか

ききあふとあふくなくいひあふ

ねさぐりいふ所のわらわれ常い

けさうなねさぐりわらわれ清きあふ

清きあふとあふくなくいひあふ

同東より清きあふくなくいひあふ

ありたいふすきあふくなくいひあふ

ありたいふすきあふくなくいひあふ

ありたいふすきあふくなくいひあふ

ありたいふすきあふくなくいひあふ

ありたいふすきあふくなくいひあふ

ありたいふすきあふくなくいひあふ

ありたいふすきあふくなくいひあふ

ありたいふすきあふくなくいひあふ

何をも。千里の外もあまのき
 池田とよそ
 合竹の園生も万歳乃聲うら
 うあはれど。
 親とけしもう竹

鳳凰もあふのけき多し
くくやかんこけじと鳥也
もきりもまらねてはさる
寛永やけきなるよし

生逢園あるみさう又高れり
乃元日ぬきれり

年々より何んやけしき
年々より何んやけしき
正徳

都る正月に世はのよからなるものぞ
けりき^{おづ}氣をめぐきことふびあまのこをた
らうとあぢも新たりわしちきんをも
いひじつのはさすあどいひねむひも
まあもろくにあやうにいひはたらくと
わざとくちることもあらわれあんがひ
おろけけけけけけけけけけけけけ
けけけけけけけけけけけけけけけ
あきなりや

[illegible]

立春

あ水 つみ井開く 雪方れる

是いもくもくもく日あれ谷うら出る寫
 の筆もひのや日けは静ノけく影の
 けくもくもくもく雪を雪ふる雪を雪ふ。
 柳もやうもく雪をけくもく風も雪をひを
 ちくすも本れ梅もけくもく雪ふもくもくことえ
 がくもくもく雪ののびくもくもくもくもくもく
 心も雪もくもく元日もひくもくもくもくもく
 もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

雪もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

雪水もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 の雪もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 けくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
 もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

毎少々々々々々々々々々々々常倫

世松

榮箕松

ふ日乃^わ好^いひと古^{いにしへ}人く世^よをさす出^でる小松を
ひきかゝりて人ともよいつゝひ作らむとぞせうこん松根
より以^{もつ}て腰^{こし}をもたへしあ年々みどりあり
こそなりとも作^{つく}る。志^{こころ}はひいてよろしく代^{しろ}や
多^{おほ}んまどもより俳諧^{はいかい}祈^{いのち}をも男^{おとこ}の女^{めづ}松小
松をとり女^{によう}を松少^{しょう}なりと心^{こころ}ひくとぞいほ

松しくい河ふれ墨子うろ目
正忠

むねを白み白ありきれ

正
月
乃
み
れ
る
る
う
が
ひ
と
白
う
那

正
如

子伯子伯

松うも花乃ねのびやむき着
休庵

養菜

まふ
乃坐
すか
むろ
る

うさぎあ
くさ
あ
あ
あ

[illegible]

昔きよつゝぬくもらへる人をも然とけ
てかゝるおはるゝあはれまじき町は
はひさめがかりもてまゝいふと買て唐
ちり多しありんる島やゝゝゝゝゝゝ
やそをうらゝやひゝゝゝゝゝゝ
梅らぎゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
洞ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
めゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
菜を神ふ思乃林廉よりゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

人をも然とけ——親を親——侍あれたる
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

源氏あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うゝれせむゝゝゝゝゝ

龜母と義経もらみんとけゝ義経
せゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
同 正武 友系 正章

こもねさうりすりボもてさうりもや
— 宝珠 —

うさぎうつらもくもてさうりも
うつらすくもつむやうさうりも 元次

うさぎうつらもくもてさうりも
あつたまれの雲井もゆくもつむやうさうりも
うさぎうつらもくもてさうりも
うさぎうつらもくもてさうりも

あつたまれの雲井もゆくもつむやうさうりも 良保

三穂打

うさぎうつら 古きあつた 一穂打つむやうさうりも

上右うつら 一穂打つむやうさうりも
法成乾乃池よくもつむやうさうりも
町ごとくあつた 一穂打つむやうさうりも
乃ゆつりもあつた 一穂打つむやうさうりも
とつた 一穂打つむやうさうりも
ほけて風流をあ 一穂打つむやうさうりも
うさぎうつらもくもてさうりも
うさぎうつらもくもてさうりも
うさぎうつらもくもてさうりも

いづれやうどもやいづれやう

今情之

たひく竹とやそくんぎやう
西条

余^よ所^そるゝを^を比^ひ京^{きやう}れ風^{ふう}俗^{じやく}よけ^{よけ}地^ち日^{にち}だん^{だん}
 むどい事^{こと}い^いれと^とえ^えこ^こり^りれ^れい^いひ^ひぶ^ぶぶ^ぶ
 は^はこ^こを^をね^ねあ^あや^やん^んえ^えけ^ける^るや^やり^りき^きこ^これ^れぬ^ぬ

ふま^ど万歳^{ばんざい}と千町^{ちやう}万町^{ばん}乃^の多^たをい^いと^とめ^めより
 け^けに^にい^いて^ても^も少^すき^きび^びみ^み一^一看^{かん}乃^の登^{のぼ}る^るを^を
 げ^げ乃^のも^もい^いけ^けさ^さ乃^の強^{つよ}よ^よ和^わさ^さう^うと^とて^て皆^{みな}ら^ら
 け^けら^らせ^せる^るび^びと^とう^うも^もぬ^ぬら^らあ^あと^と大^{おほ}飛^とぶ^ぶ
 あ^あと^とや^やぬ^ぬけ^ける^る

殘雪

[illegible]

惟ただ子こ雪ゆき乃の村むら流ながををめめゆゆいい乃のここまま〜
て。餅もち雪ゆき乃のおおきき乃の日ひのの氣き乃のかかづづううとといい
〜山やま姫ひめのの化け粧しやうもも〜ろろううげげ山やま姥おば乃の容よう瑤よう

ふげ露をうけても武蔵野をさひ又目の
うしろをうすくやういふをうろく人乃愁を
うへるが山れ歌中うらみ記さぐさるる
まれ眺望をもつてり

むさ野よけさ一壺のうらみ
仁和寺の山れ露や霞にうらみ
九重の山やとをめれいとうき
雪方山よかつまづより記さるる

乾坤ややちうきも乃をむこ
うたれやの露や志やくれ紗の衣 加々

うらう無きかきさくならん
里侍りうれん

雲山も十徳やきつるまかひに 正武

十方八方よりまきつるかきさく 正頼

金衣の 雲のうらみ とうら みる
鳥 けくろ 花よあ 竹よさる 澄

琴 ちくく 泣花経 みる

節とつひくは梅乃曲ときあ 観今を柳
花苑もつひあせり泣花経とあくとつ
経もじやいひく初音へ席品はまこあ
きふ部もどくりけりてあべての経を

あわれ梅阿婆こころ
まゐりつづき梅阿婆の梅 備

梅

空の梅 花乃兄 梅の花笠 念れ梅 紅梅

新端の梅 常宿梅 好文本 花梅 編角梅

紅梅 鏡梅 坐論梅 墨さき 梅さき

黄梅 ころれ梅 かりの 白ふすしえ

郎波 小野 左便炭

かりとてくは 就腦の梅 花よりせ 紫射の
念の毒もけいあ 古本に沈りり 杉本の
伽羅よりこころ 夢をひらいていふさきこの梅

みいひとて香と香梅の所よりんかひ又 落
墨の編角梅 枝やり梅や十文字よりん
ア花れ兄こころいふさき月よりん 花梅
乃夢をけい本よりん 夢やうらえ乃夢と
そえんと求む 波常来乃 神本あれかり梅
と渡唐乃 天柿の梅をこころいふさき乃 夢
もろろとて 杉又在中の梅 花
さうふさき乃 夢事と夢び 蘇子 膽をさぬ
うー花より 夢事とて 夢さき乃 夢事と
そよりん 夢事とて 夢さき乃 夢事と
めろろとて 沈れよりん 梅の花

いづれに河の香もあはれむ
いづれ

柳

わとやまの 系御 玉御 玉乃とやま

志ろ柳
し柳
ろ柳
川柳

川名也
岩後
新柳
系柳

ゆきり柳 柳髪 柳腰 志多し

多
喜
風
よ
け
る
地
池
岸
鞠
場

柳をさやけ乃あがき——ぐらひもの琴の
系あともいひあ——ぬりあひ風れげふ
うきききとあがき川邊ふあひうきを氷う
ひくやううと静い^{うきか}もゆるやうしていふ^{うき}岸^{うき}を

川柳あどもいひくぞ極といふか
うりて氣力ありと作ねむとが然る
あらうれどもいり

喜しゆあやふや極

きりふの柳のかぶろがしら

柳がさきぐーるやゆい

朝日阿多極やうに

大坂清方万句出歌

ちーあふ末盤昌乃柳の那
長院

なんふそん柳ぞ板ぶ
心象

志づるやとえむすそづの象徴 懐人志

下髪うらうり髪乃いも屋あま
ゆきらあゝ柳乃こづやみちか
体庫 一葉

春月

曉月 ぼし

雲乃肉よきうくを燈ぐれ額けきなう
きの額れ肉あどもんあーみぐね玉古鏡み
もたへ肉付乃いけなももよせきつものも
あーいふゆる洞とぬあれたやうりあて
ものり

お金と乃べこる春の月れう
良保

似ふ物とあいへ 曉月 ねの
こ友

春回

まき日あー 永日

春乃日あうろまきまといひさうし
よのりーも砂なやゆあまもい
ほろあーげやうからうげやうーなもを
てあきなへみあーけくー

すん海ういおきであづきこる日
けいり山崎あきけーのこや

おぼろ乃あーうりあー日乃かす
心ま

人等跋提河乃造^りて新^し画^えあり一日^{いちにち}ある
 所^{ところ}にあ^あゆ^ゆぬ^ぬち^ちく^くふ^ふ涅槃^{ねはん}乃^{すなは}法^{ほふ}像^{ざう}を掛^かて
 宗^{しゆ}く^くれ^れぬ^ぬは^は是^{こゝ}とあ^あひ^ひな^なも^もや^やも^もさ^さい
 所^{ところ}に鼻^{はな}を^をて^て明^{めい}や^やれ^れん^ん象^{ざう}を^をつ^つり^りす^す
 て^てけ^け羅^ら乃^のて^てあ^あも^もあ^あく^く

あゝ物も鼻もねえやねん象
清感もろやろあやうれ 後志

范

花乃戲

花の香

彭江波

花乃海

世

花のみき

卷之五

花梅

芥子園

花うた

世之

七五

卷八

花乃婆

善女

花錢

花之如也

つゝ
し
し

元心自

去

ら

東
之
士

花に様をいふまゝにあらでふふふ
 本^やのうらまもさうりけり花のりけり
 の高^えふふ金^えもかえりけり事^えけり
 今^えももかろりけりおるいふけり
 花をいふまゝにあらでふふふ
 いひけりけり一日^{つぎ}お終^えもわかれていけり

芳かを想ひて酒を傾けぬ露と親といひ
 風嵐を何と云ふれと云ひ。ねとがやう都々
 西施が胸あやうと云ひ。ねとがやう都々
 うはもねすう百乃媚と云ひ。あひれも
 うつれもいふももねと云ひ。あひれも
 まどやうもあてと云ひ。あひれも
 うつれもいふももねと云ひ。あひれも

花乃陰より酒の小筒けきたりと云ひ
 大い酒乃と云ひ。ねとがやう都々
 花乃陰より酒の小筒けきたりと云ひ

花乃陰より酒の小筒けきたりと云ひ
 大い酒乃と云ひ。ねとがやう都々
 花乃陰より酒の小筒けきたりと云ひ
 大い酒乃と云ひ。ねとがやう都々
 花乃陰より酒の小筒けきたりと云ひ
 大い酒乃と云ひ。ねとがやう都々

けりりやうけりりやうけりりやうけりりやう

永無も花乃りりやうけりりやう

ふにりやう親づりふせそ花乃りりやう

けりりやうけりりやうけりりやうけりりやう

けりりやうけりりやうけりりやうけりりやう

短冊の風けりりやうけりりやうけりりやう

枕のえききききききききききききききき

けりりやうけりりやうけりりやうけりりやう

けりりやうけりりやうけりりやうけりりやう

花乃部あてあききの山乃部

むのきりりやうけりりやうけりりやうけりりやう

長花

同

正章

一葉

乃保

如友

元寛

良保

休甫

あけりりやうけりりやうけりりやうけりりやう

同

櫓

山櫓 家櫓 系櫓 うも櫓 うも櫓 波櫓

火櫓 妙櫓 小櫓 楊子櫓 くらぐ 志がぬ

きりりやう けりりやう けりりやう 普賢象のせ櫓

ま櫓 女櫓 櫓り やるひとく みる

白ふ火とわん ひく 笑らる 吉野

金龍寺 祇園 清う 孝玉 勤る

春の櫓ようようかされて人乃りりやうけりりやう

小あり櫓乃木玉とありておぼふとやび

おぼふとあり火櫓を結うがおりともや

火とやいふよりいふ系極いふわつともいふ所
 もあれど——さういふ——何れもあや
 などもいふはもあれ極いふ平仲りやうも
 一 聲をよめ人。普賢象はあつむか
 のさきもいふはあれ。輕いささくは祇を
 よせ彼岸極いふ人あはる縁をむいふど。
 やうをささく。うらふお言よあててを
 意あつ——

二 葉ふさく彼岸極いふもいふ
 小極いふもあはる。いふもあはる。いふも
 統てそれさきいふはもいふもいふも

勢あつて人やいふは家極
 せんくうきいふはあはる。あはる。あはる
 何つこのや万句よ

やうきいふはあはる。あはる。あはる
 もあはる。あはる。あはる。あはる。あはる
 小極いふもあはる。いふもあはる。いふも
 勢あつて人やいふは家極
 せんくうきいふはあはる。あはる。あはる
 何つこのや万句よ

佛あまへあまやあや乃な物ものさく

同

向むかふふ乃なううれれ花はなのの普ふ賢けん象さう

七花

花はな乃な波なみももハハなれなれ臨りん竈くわのの極ごく乃な邪じゃ

同

襟えり乃なややああいい借か屋やせんせんつつええささく

良保

花はな極ごくももいいんんととぐぐももううりり地ち極ごく

立圃

き乃なくくししちちううりりけけるるししる

あ乃な川かわややううささくくああぐぐくく極ごく

徳元

ややううききいいおおちちここ乃なままりりつつせせ極ごく

正伯

糸いと極ごくららぬぬ極ごくもも落おれれ乃な邪じゃ

正忠

馬うま乃なかかりりももととががめめささくくもも

同

ねねくくいいままららくくがが花はな乃なまま極ごく

一滴

椿花

伊勢極

あ玉極

了く極

とびり

咲け

極

咲き本

うき

ははいいききここややららももかかももぬぬももととああでで玉極

いいもも玉たまよよううああてて琥こ珀はく珊さん瑚こももいいひひ玉極

餅もちいいまま乃ないいここよよままううくくわわれれももうう物ものや

本もとにに餅もち乃なあありりううららななううわわいいひひ乃な乃な極

いいせせ極ごくととびびりりああももととままよよははきき乃な乃な極ごくあある

花乃はな物ものややああくくもも乃な乃な玉極

小極こごくののももふふれれいいちちううああるる乃な

梅極うめごくいいまま乃な糸いと乃な奇き連れん雛ひな乃な命いのちああれれ乃な乃な極ごくあある

ああるる乃な乃な極ごくももいいまま乃な乃な極ごくああるる乃な乃な極ごくああるる

乃いゆれなつりもつひかみんも真まへへ
 くれえ大橋のたけなふ故乃名ありとひと
 麿者乃いぬさうさふいとくそでゆれを
 又何の物よさうゆれもたけなふと見ぬ程
 せぬがしらもゆれもくも見ゆれとつとみゆれと云
 毎さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 まりきりさうさうさうさうさうさうさうさう
 乃いゆれなつりもつひかみんも真まへへ
 又梅
 暦やつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 くむれさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 乃いゆれなつりもつひかみんも真まへへ

詞を讀もつて候あるさうさうさうさうさうさう
 くさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 俳諧乃るれ唐さうさうさうさうさうさうさう
 乃いゆれなつりもつひかみんも真まへへ
 又梅
 乃いゆれなつりもつひかみんも真まへへ
 乃いゆれなつりもつひかみんも真まへへ
 乃いゆれなつりもつひかみんも真まへへ
 乃いゆれなつりもつひかみんも真まへへ

海棠

乃いゆれなつりもつひかみんも真まへへ

山科一
もてふやいぬきうききとけしねや小鼓乃き
アキキとてあてきけのほろそく舞
乃肉きもといあふぬあがもきこもけ中
ううぬ依ほよりてあうとあて乃ほろそ
ぐうひきしけきもといひ又あて乃ほろそ
あうと

中うれうきうあうとああ雙ふたうき
あう乃子にけうききあやあかひれ
はんり乃あか物うやあてつて
うんほれあうききあてきき鼓
足り乃うききあてききあてき
徳元

母乃返答

おい
おい
あう乃あてききあてきき
うやあてききあてきき
鬼乃あてききあてきき
ろくつひあてきき

やまぬ乃あてききあてきき
根乃あてききあてきき
はくくあてききあてきき
又うききあてききあてきき
つむよきあてききあてきき

法師乃ちんも何うもや

つら乃ちまのきん者やけくじ

形もふ道達一々

くういともいふね目れつじ

休庵

去秋乃ち木おちもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや

蕨

けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや
けふとせうもあつれぬももけりや

詩人紫雲と作するも俳諧のあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ

志賀山と海とあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ
あつれぬあつれぬあつれぬあつれぬ

はかばか
正

山吹

井子

也御月少子
也月少子乃能

ヤンズはがきと砂金袋とて金峯山

ちりかゝを金^{きん}とれこあばりくうごふふ
 あせりうづきふ部といひてふいどけかゝれたる
 かり^{そと}海とせひかんふきふけりいふともいふ
 くらあけきあれ城といふ花ともいふ實^{じつ}は
 あももきよふくは

やうきうはがこゝろ 砂金銭か
ふじきれこゝろ やー 燈乃金雲山 光苑
ちうくろく字まなまのれろ 銭見
ゆりて

山崎也人河本慶乃信之
御前也人河本慶乃信之
正式

躑躅

名はー ちーア 蓮花のー 緋也
杜鵑花 アーゲル 如雲乃檀

春乃日水あつはひいんを小濤とえて含龍小筒
やうれ物あひくよまげらりりりあひんがー山
ろぶひく魚とあけきふららるるもえり
酔へる酒のアドとと下アウあけく餅ア
ろとつひもてかちあろ山もよ田とくドて
白きあれは氣乃きくもあてかぎせらるる小紐
もぐんあはドとと又山とつじやとん袋
ろとつひてろとつれ鳥ももけりねあは
はドれきようの蓮花アア乃香あつる心ど

りーそろふはあはる作とあへー

かきふとつじはドやとん袋
ねあけりそかうととろもら
らうとやんざらまうづるつと
あつてまうづるけりれ露や羊の乳

藤

ちうち 若波 ちうち ちうち ちうち
ちうち ちうち ちうち ちうち ちうち
あふ 一さ 田子の

ちうちの棚ふちうちのれ白ひれ棚あどひ
ちうちのちうちのれとちうちのちうちのれ
ちうちの棚ふちうちのちうちのちうちのち

よき波おきり門あかりうきと夜
ととふられぬきいしておれぬも
えきしつる

是と又白ひつるれでしらぬお
門あかりあけぬやしらぬれ
しらふよりすいづきり松のや
ぬこや花よりい——風毒腫
しらつるやもみんあき下地
良忠

海防

つるり

花もどけんきとつるきうき越後の
き女もやちしりいられけつありあきよらで
らいていあきよらきうき女とあきよら
き女もやちしりいられけつありあきよら
けつありあきよらきうき女とあきよら
けつありあきよらきうき女とあきよら
けつありあきよらきうき女とあきよら

花もどけんきとつるきうき越後の
千里いともやあきとて人あかり
かりきよきあきとて人あかり
けつありあきよらきうき女とあきよら
けつありあきよらきうき女とあきよら

雄子

きー ちうきん 子あり 妻ふ
やけぞ 禁野

野山やけい 是れ 妻ふとのけい 是れ
あんきとあんくや あきうれ 是れ 妻ふのけい
猫呼とんくも 涙乃ちう 是れ 妻ふのけい
ちうく 妻ふのけい 是れ 妻ふのけい
うきう 涙のちう 是れ 妻ふのけい
あきう 是れ 妻ふのけい

あきう 是れ 妻ふのけい
あきう 是れ 妻ふのけい
あきう 是れ 妻ふのけい
あきう 是れ 妻ふのけい

胡蝶

ふく ちうきん
あきう 是れ 妻ふのけい

あきう 是れ 妻ふのけい
あきう 是れ 妻ふのけい
あきう 是れ 妻ふのけい
あきう 是れ 妻ふのけい

あきう 是れ 妻ふのけい
あきう 是れ 妻ふのけい
あきう 是れ 妻ふのけい
あきう 是れ 妻ふのけい

うろのせゐるそふ乃まひれ芝居
何う中に入りては嫌や思の舞
わうそ乃る思やいゝる下

俳

蛙

あうろ かなうろ ひさうろ
井田池井乃ら 苗代

うれくやあまうぬさうわといふ天蟾といふ
いどむぎまはれなせと捨てすむじりも
うらあゝ露乃玉とわづき乃蟾もつひけれ
あゝあゝ乃いゝもり井のうら氣ふてぞ
とあゝぬらととあゝ乃又あゝすむじり乃
あゝいゝといふ乃いゝもりいゝ乃いゝ乃いゝ乃

魚びものもれて食をうらんどつゝさあど
をもすといふあれ文武なる乃かゝる
ともきゝゝえり

うゝ軍文武なる乃かゝる乃

かなうこ乃うゆゑるむ池は

獨吟ふ乃あゝ

うらふ所近あゝうらひとと蛙ふ
あゝあゝかゝる乃うひや廻文乃 俳
うゝ乃田も井のうらゝあゝ 正武

三月三日

曲水宴 柳 桃乃花 如桃 壁桃 桃乃
草餅 くらもち 鶏合 ひのかき

うみかきふゑのふもびとひて桃乃れと柳の
 えとと種ふ親ふもふつけつて人よこのけを
 りりうら親ひも月ゆそを俳諧と桃乃酒と
 いひ傳へぬうゝ又もけ花斗をもなるの股あつて
 百乃敷あふよふせつてうらなふ句よきつるも
 傳ふももぎ乃何もつてふはつれ文うゝあ
 めてふあれんごううそもうゝのむあり
 すてき供あふふおの園の桃あり王母は
 らせうてふ千乃敷と何やうりおとこふ
 き門乃親はふんめいッふをかりて命を延と
 いひあてふもふんめいッふをかりて命を延と

花もまふ東かゝるや園乃桃
 らもいひてふ人やうらなふ桃餅
 曲あ乃えんもうゝい桃乃餅
 らもいひてふ人やうらなふ桃餅
 やういなる乃目長あ丸へすうり作ふよけ
 の作ふのふもいされふり、乃乃い
 の作ふのふもいされふり、乃乃い
 えつてふあふ作ふい、乃乃い
 ーきひてふ節、作ふい、乃乃い
 なるのふもい、乃乃い、乃乃い
 ありとせうされつれい

けふもいづれかしやうれ桃の花
 いふがむいふいふ月乃ちのさうらう
 とくちりいづれかしやうれ桃の花
 もいづれかしやうれ桃の花
 りよふいづれかしやうれ桃の花
 あつ屏風乃ちいづれかしやうれ桃の花
 どやうちりいづれかしやうれ桃の花
 柳乃ちいづれかしやうれ桃の花
 ちやうちりいづれかしやうれ桃の花
 いづれかしやうれ桃の花
 えりいづれかしやうれ桃の花

いづれかしやうれ桃の花
 禁中いんちゆう乃ちいづれかしやうれ桃の花
 ちやうちりいづれかしやうれ桃の花
 けふもいづれかしやうれ桃の花
 いづれかしやうれ桃の花
 いづれかしやうれ桃の花

三月

やういづれ

桃の花

いづれ

春乃ちいづれかしやうれ桃の花

